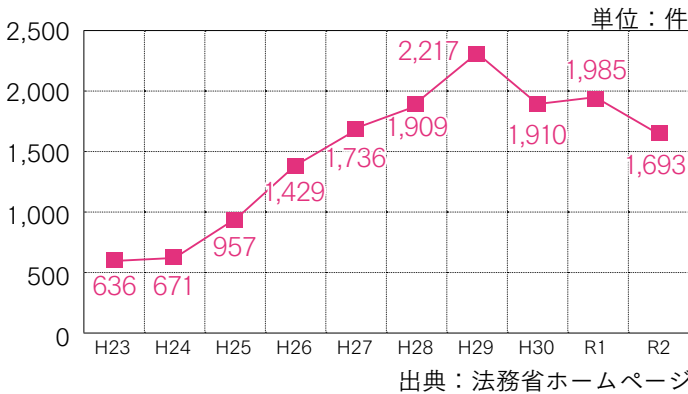


■ インターネットを利用した人権侵犯事件の推移



安心・快適なネット社会を目指して

インターネットの普及により、パソコンやスマホを使って、離れた場所においてもさまざまな情報を共有することが可能になりました。コロナ禍でますます活用する機会も増えていきます。

ネット社会が持つ危うさ

いまや私たちの暮らしに欠かせない道具の一部となっているインターネットですが、使い方次第では人の心を深く傷つける凶器にもなることを理解しておく必要があります。

国の調査によると、近年、インターネット上で起こった人権を侵害する事件（人権侵犯事件）の件数は、高い水準となっています。自分の名前や顔を簡単には知られることなく情報発信できるという特性が悪用され、他人を誹謗中傷したり、プライバシーを侵害する情報が掲載されたり、差別を助長する表現等の書き込みが行われるなどの事例が後を絶ちません。特定の民族や国籍の人々に対する差別的言動や、同和問題に関して差別を助長するような内容の書き込みがされることもあります。

インターネットを快適に使うために

【情報を発信するとき】

インターネット上であっても差別や偏見に基づく行為は、決して許されるものではありません。インターネットを利用するときも、直接人と接するときと同じようにルールやマナーを守って責任ある行動を取ることが大切です。

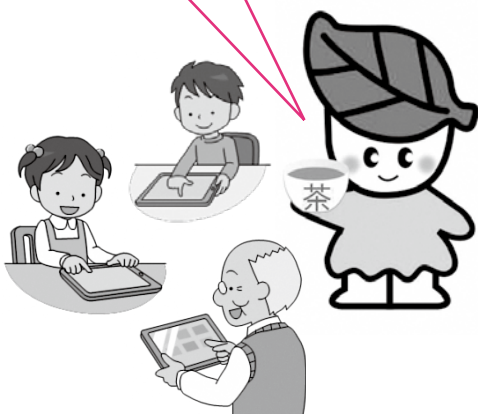
メッセージを送ったり、掲示板に書き込むときは、インターネットの向こう側の誰かを傷つけることのないように、投稿する前には一呼吸置いて、内容を冷静に見返してみましよう。

【情報を受けるとき】

インターネット上には、正しい情報だけでなく、推測やデマ、うわさ、偏見、悪意などによる「まちがった」「かたよった」「うそ」の情報も数多くあります。また、アクセス数が多いほど表示されやすくなる傾向にあるため、検索結果やおすすりリストの上位に出てくる情報が必ずしも正しいものであるとは限りません。そのため、情報をそのまま鵜呑みにしてしまふと、誤った情報を広めたり、誰

インターネットと上手に付き合うために心がけること

- 他人を誹謗中傷しない
- 自分と他人のプライバシーを守る
- あいまいな情報を投稿しない
- 一度投稿した内容は完全に削除することはできないと考えておく



かを傷つけてしまったりする可能性があります。誤った情報に惑わされないためには、情報をそのまま受け入れるのではなく自分で考え確認する能力を身に付けることが大切です。

インターネット上のあらゆる人権侵害は、インターネットや機器が起しているのではなく、利用する私たちによるものです。私たち一人一人が日頃からさまざまな人権問題に対し、正しい知識と認識を持ちましよう。同時に、画面越しでも人と人との付き合い合いであることを忘れないように心がけ、みんなが安心して快適に過ごせるネット社会を築いていくことが大切です。